

静岡県環境放射能測定技術会（令和3年度第4回）会議録

1 開催日・場所等

日時	令和4年2月14日（月）15:00～17:00
方法	Web会議
出席者	構成員：加藤危機管理監代理兼危機管理部部長代理ほか17名
議事	<p>議事</p> <p>(1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第192号</p> <p>(2) 静岡原子力だより192号（案）</p> <p>(3) 令和4年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画（案）</p> <p>報告</p> <p>(1) 令和3年度第4四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報</p> <p>(2) 空間放射線量率測定装置の更新整備</p> <p>(3) 浜岡原子力発電所の現況</p>
配布資料	<p>資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和3年10月～12月）（静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和3年10月～12月）（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料3 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料4 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第192号（案）</p> <p>資料5 静岡原子力だより192号（案）</p> <p>資料6 令和4年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画（案）</p> <p>資料7 令和3年度第4四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報</p> <p>資料8 空間放射線量率測定装置の更新整備</p> <p>関連資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査解説資料</p> <p>関連資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第191号</p> <p>関連資料3 静岡原子力だより191号</p> <p>中部電力報告資料 浜岡原子力発電所の現況 1, 2号機の廃止措置で発生したクリアランス物（金属） の再利用について</p>

2 審議事項

- (1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書（令和3年10月～12月）
- (2) 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力(株)浜岡原子力発電所）  
測定機関が、資料1（環境放射線監視センター）、資料2・3（中部電力(株)浜岡原子力発電所）により測定結果を報告した。

<質疑応答>

構成員：資料1添付1の空間線量率1時間平均値の上限逸脱時刻について。「7時」と「7時～8時」とは何がどのように違うのか。

監視センター：1時間平均値の算出方法については、7時の1時間平均値は、6時から7時の線量率を平均した1時間値となっている。表2の「7時」は、6時から7時の1時間平均値を示している。「7時から8時」は7時の1時間平均値と8時の1時間平均値、つまり2時間分の1時間平均値が超過したことを示している。

構成員：1時間毎に平均するということか。例えば平場は、5時～6時と6時～7時と7時～8時ということか。

監視センター：そのとおり。

構成員：資料2添付1の4号機と5号機の放水口モニターでの上限逸脱について。雨水の流入が原因とのことだが、5号機の値の方が4号機の4倍くらい高い。5号機の方が雨水の流入が非常に多いと考えればよいか。

中部電力：各号機の放水路ルートと流水範囲から、4号機の放水路ルートの長さが5号機より長いので、5号機の方が早く雨水が流れてくる。影響する天然核種のビスマスや鉛などは半減期が30分程度と短いため、3、4号機の場合は放水口モニタに到達するまでにある程度減衰して、指示が小さくなる。5号機は減衰する前にモニタに到達するため、指示が高くなると考えている。もう1つは、4号機の放水路のルートはタービン建屋の北側を通っている。ここは山側の土壌が多いため土壌に雨水が吸収され流入量が少なくなる、一方5号機の流入範囲はコンクリートに覆われているため、放水路への雨水の流入が多い。この2点から5号機の方が大きくなったと考えている。

構成員：減衰とのことだが、雨水は図の青のルートを通るのに30分や1時間も掛かるのか。

中部電力：正確な時間はわからないが、長さとしては十分あるので理由の1つと考えている。

構成員：どのくらいの長さがあるかはわからないが、水がそんなに30分も1時間も流れるのにかかるのかとは思った。コンクリートの話は理解した。

構成員：資料2添付2放水口モニターの件。清掃すると下がるというのは、中が何故汚れるのか。砂が入るのか

中部電力：放水口モニターで水をくみ上げる際に中に入っている砂を徐々に巻き込んでいってだんだん砂がたまる

構成員：モニターの水を測るタンクの所に溜まるのか。サンプラの中に溜まるということか。

中部電力：そのとおり

### (3) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第191号(案)

事務局が、資料4により、浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第191号

(案) を説明した。

< 質疑応答 > なし。

< 審議結果 > 承認。

(4) 静岡原子力静岡原子力だより 191 号 (案)

事務局 (原子力安全対策課) が、資料 5 により、静岡原子力だより 191 号 (案) を説明した。

< 質疑応答 > なし。

< 審議結果 > 承認。

(5) 令和 4 年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画 (案)

事務局が、資料 6 により、令和 4 年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画 (案) を説明した。

< 質疑応答 > なし。

< 審議結果 > 承認。

### 3 報告

(1) 令和 3 年度第 4 四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報

測定機関 (環境放射線監視センター及び中部電力株) が、資料 7 により令和 3 年度第 4 四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報を説明した。

< 質疑応答 > : なし。

(2) 空間放射線量率測定装置の更新整備

測定機関 (環境放射線監視センター) が、資料 8 により空間放射線量率測定装置の更新整備を説明した。

< 質疑応答 > : なし。

(3) 浜岡原子力発電所の現況

中部電力株が、中部電力報告資料により、浜岡原子力発電所の現況について説明した。

< 質疑応答 > : なし。

以上

令和3年度第4回静岡県環境放射能測定技術会  
出席者名簿

日 時：令和4年2月14日（月）午後3時～  
方 法：Web会議（Zoom ミーティング）

○静岡県環境放射能測定技術会構成員

所 属	職 名	氏 名	摘 要
静岡県	静岡県危機管理監代理兼 危機管理部部長代理	加藤 晃一	会長
名古屋大学	名誉教授	飯田 孝夫	学識
静岡県立大学	教授	伊吹 裕子	学識
静岡大学	名誉教授	奥野 健二	学識
浜松医科大学	教授	間賀田 泰寛	学識
公益財団法人 海洋生物環境研究所	フェロー	渡部 輝久	学識
静岡地方気象台	防災管理官	紅林 亘	
静岡県	環境放射線監視センター所長	降旗 昌彦	
静岡県	農林技術研究所長	塚本 忠士	
静岡県	農林技術研究所 茶業研究センター長	山田 栄成	
静岡県	畜産技術研究所長	伊藤 謙一	
静岡県	水産・海洋技術研究所長	岡本 一利	
御前崎市	エネルギー政策課長	齊藤 誠	
牧之原市	総務部危機管理課長	森田 克彦	
掛川市	危機管理課長	水野 正幸	
菊川市	危機管理課長	木佐森 由巳	

○オブザーバー

原子力規制庁	長官官房放射線防護グループ 監視情報課	海野 幸広	オブザーバー
原子力規制庁	浜岡原子力規制事務所 所長(代理)	山林正樹	オブザーバー